

学校評価書

令和7年度 輪島市立門前中学校 NO.1

＜重点目標①（知）＞ 確かな学力の育成

評価の視点	ビジョン	評価の方法	対象	アンケート項目	中間アンケート	最終アンケート結果	自己評価	最終評価	分析	今後の取組
自分の考え方を分かりやすく伝える・表現する力の育成と学力の向上	(1)	アンケートの結果と、各種学力調査の結果及び英検、漢検等の達成状況から評価する。	生徒 保護者 教員	①授業では、集中して先生や友達の話を聞いている。 ②授業では、話し合い活動に積極的に取り組んでいる。 ①お子さんは、「授業が分かる」と言っている。 ②お子さんは、学習に対して意欲的であると感じる。 ①校内研究の研究主題を意識して学習指導に取り組んでいる。 ②ゴールイメージを持ち、それに到達できるような資料の提示をしている。 ③授業のまとめを、生徒の言葉で表現させている。	100.0 96.6 80.0 62.1 100.0 100.0 100.0	100.0 93.6 80.6 46.9 100.0 100.0 100.0	88.7	a	・2学期最初のMM(生徒集会)で、2学期の学習のポイントを生徒に伝えることで、心構えや効果的な学習方法を共有することができた。 ・参観型研究授業の計画的な実施、月1回の研究だよりの発行等を通して、研究主題や共通取組を意識しながら、教職員の授業力向上に取り組むことができた。 ・生徒の結果と保護者の回答に差が見られる。原因として、家庭学習の取組に課題がある生徒が数名みられることや、保護者が子どもの学校での学習の様子を知る機会が少ないと考えられる。	・3学期は、以下の2つを共通行動として重点的に取り組む。 ①ねらい達成の具体的な姿の確立 ②考え方を深める発問・問い合わせ ・参観型研究授業の実施や研究だよりの発行を計画的に行い、教師の授業改善を図ることで、生徒の学習意欲につなげる。 ・教師の研究授業や授業参観の様子をHPや学校だよりなどで保護者に伝える。
家庭学習の質的向上と学習習慣の定着	(1)	アンケートの結果と、家庭学習時間調査の結果から評価する。	生徒 保護者 教員	③家庭でも時間を決めて学習に取り組んでいる。 ③お子さんは、家庭学習の習慣が身に付いている。 ④お子さんは、定期テストに向けて計画的に家庭学習に取り組んでいる。 ④授業とリンクした予習・復習の課題を出している。	79.3 60.0 56.7 85.7	74.2 61.3 53.1 100.0	72.2	c	・授業とリンクした予習・復習の課題を出すよう教員に呼びかけたことで、2学期よりも肯定的な回答が上が上昇した。 ・家庭学習の取組が不十分だと感じている生徒が2割～3割程度、保護者は4割～5割程度いる。	・家庭学習の良い例(あすなろノート等)を、各教科の授業冒頭やMM(生徒集会)で知らせるようにする。また、良いノート例の掲示を継続する。 ・定期テストの計画表に保護者印とコメントをもらう取組を継続していく。
ICTを生かした学びの改善	(1)	ICT機器の活用による授業改善とGIGA構想に基づく学びの質の向上を評価する。	生徒 教員	④ICT機器を有効に学習に生かしている。 ⑤ICT機器を活用した授業改善に取り組んでいる。	93.1 100.0	96.8 100.0	98.4	a	・ICT機器を日常的に使用することが定着しつつある。	・ICT機器を今後も日常的に使用していく。また、授業や家庭学習を中心に、キュビナも引き続き活用していく。
新聞や読書を通しての活字への慣れ親しみ	(1)	200字作文、アンケート結果、読書調査から、文字や文章に慣れ親しんでいるか評価する。	生徒 保護者 教員	⑤デジタルも含めて、家庭で活字に親しんでいる。 ⑤デジタルも含めて、家庭で活字に親しんでいる。 ⑥デジタルも含めて活字に親しむように指導している。	96.5 58.6 100.0	90.3 56.3 100.0	82.2	b	・生徒の数値と、保護者の回答に30%以上の差がある。家庭での様子(読書について)を把握する必要がある。	・デジタルの情報の活用の仕方を授業などで指導していく。 ・家庭での読書の様子を生徒に確認する。 ・長期休みの「家庭読書」の取組を継続し、家庭での読書習慣が身につくよう呼びかける。

＜重点目標②（徳）＞ 豊かな心の育成

評価の視点	ビジョン	評価の方法	対象	アンケート項目	中間アンケート	最終アンケート結果	自己評価	最終評価	分析	今後の取組
自己肯定感・自己有用感の涵養	(2)	アンケートの結果と、学校行事の様子から評価する。	生徒 保護者 教員	⑥自分には、よい面がある。 ⑦これからの自分のことについて考えている。 ⑥学校は生徒の良い面を伸ばしてくれている。 ⑦お子さんのこれからのことについて話をしたことがある。 ⑥生徒のよい面を積極的にほめている。	82.7 65.5 86.7 80.0 100.0	80.7 90.3 93.8 83.9 100.0	89.7	a	・自分のキャリアについて考える機会を増やすなどの取組を通して、「これから自分のことについて考えている」と回答した生徒が25%増加している。 ・やや上昇したものの、進路やこれから将来について家庭での話し合いが不十分だと回答している保護者が約2割いる。	・キャリアパスポートの活用、総合的な学習の時間における進路学習、外部の方による出前授業や教育相談を通して、これから自分のことについて考える機会を継続して設ける。 ・上記の学校での取組を、進路指導主事や各学年の担任が便りやHPで発信し、家庭でも話し合うことを呼びかけるとともに、保護者が参加できる場を設定する。
いじめ・不登校のない学校づくり	(2)	アンケートの結果と、実際のいじめ、不登校の件数や経緯から評価する。	生徒 保護者 教員	⑧自分は、友だちを大切にしている。 ⑧学校は、いじめや不登校のない学校・学級をつくろうとしている。 ⑧積極的・継続的にいじめ、不登校のない学校・学級づくりを心がけている。	100.0 93.3 100.0	100.0 87.6 100.0	95.9	a	・「いじめや不登校のない学校・学級づくりに取り組んでいる」と肯定的に回答している保護者の割合が93.3%から87.6%に減少した。原因として、1年生の授業において、全体への指示が一度で通らなかったり、言葉遣いが乱雑であったりなど、安心安全に過ごす雰囲気が不十分であると考えられる。	・道徳・学活やSCによる「心の授業」を通して、すべての子どもの居場所づくり、生徒同士の望ましい人間関係の構築に努める。 ・生徒が欠席した際やトラブルが起きた際の情報共有・確認を継続して行う。
基本的生活習慣の定着	(2)	アンケートの結果と、学校公開等での意見から評価する。	生徒 保護者 教員	⑨自分は、挨拶がしっかりできている。 ⑩語先後礼・無言清掃に取り組んでいる。 ⑪11時までには寝ている。 ⑨生徒たちは、挨拶がしっかりできている。 ⑩お子さんは11時までには寝ている。 ⑨学校でのルールを生徒に守らせるよう指導している。 ⑩語先後礼・無言清掃の指導をしている。	89.6 100.0 78.3 89.7 70.0 100.0 100.0	96.8 93.6 80.6 93.4 75.0 100.0 100.0	91.3	a	・「挨拶がしっかりできている」と回答している割合は生徒も保護者も9割を超え、良好である。 ・「11時までには寝ている」と回答した生徒と保護者の差が近づいてきているものの、約3割近くが夜11時までに寝ていない。	・「どのような挨拶をしているか」に目を向けさせ、大きな声を出す、相手の目を見る、笑顔など、気持ちの良い挨拶ができるように指導する。 ・生活習慣を整えること、睡眠の大切さを伝え、便りを通して保護者にも知らせ、家庭での呼びかけをお願いする。
生徒会活動・係活動の活性化	(2)	アンケートの結果と、生徒会の取組を客観的に評価したり、係活動の足跡から評価したりする。	生徒 保護者 教員	⑫生徒会活動や係活動に積極的に取り組んでいる。 ⑪お子さんは、生徒会活動や係活動に積極的に取り組んでいる。 ⑫学校は、子どもたちが地域で活躍できる機会を充実させていく。 ⑪委員会活動や係活動は、普段の生活にも生きるように指導することを心がけている。	96.5 83.3 90.0 100.0	93.6 84.4 84.4 100.0	90.6	a	・生徒や教員の肯定的な回答が9割を超える、良好である。 ・保護者の回答は、どちらも8割を超えて良好であるが、「生徒会活動や係活動に積極的に取り組んでいる」に対する生徒と保護者の回答は、1割程の差がある。	・学校だよりや学年だよりを通して、生徒が生徒会活動や係活動に積極的に取り組んでいる様子を発信していく。 ・全員が活動に取り組めるように教員から仕事を振って参加できるようにしていく。

<重点目標③(体)> 健やかな体の育成

NO. 2

評価の視点	ビジョン	評価の方法	対象	アンケート項目	中間アンケート	最終アンケート結果	自己評価	最終評価	分析	今後の取組
体育や諸活動の充実による体力・運動能力の向上	(3)	アンケートの結果と、対外的な活動の様子や、学校公開でのアンケート等から総合的に評価する。	生徒	⑬体育や運動を通して、体力の向上を図っている。	82.8	80.6	90.3	a	<ul style="list-style-type: none"> すべての項目で肯定的な回答は多いが、生徒と保護者で1割ほどの差がある。 ミニスポーツ大会や中高合同スポーツ交歓会などの体育行事を継続して行っていく。 生徒の肯定的な回答が低いため、保健体育の授業内での体力の向上に取り組んでいるという認識を高めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ミニスポーツ大会や中高合同スポーツ交歓会などの体育行事を継続して行っていく。 生徒の肯定的な回答が低いため、保健体育の授業内での体力の向上に取り組んでいるという認識を高めていく。
			保護者	⑭学校は、体育・運動を充実させ、体力の向上・耐える力の向上を図っている。	82.8	90.3				
			教員	⑮体力・運動能力の向上や耐える力の向上を図っている。	87.5	100.0				
安心・安全な学校づくりと防災教育の充実	(3)	アンケートの結果と避難訓練、危機管理マニュアルを活用した対応等で評価する。	教員	⑯学校内外の安全指導の徹底を図っている。	100.0	100.0	100.0	a	毎月の安全点検や生徒集会、校舎の見回り等で安全指導ができる。	安全点検や集会などを通して生徒への安全指導を継続する。
学校と家庭の連携による共同体制づくり	(3)	アンケートの結果と、生活アンケートの結果から評価する。	生徒	⑰スマホ使い方宣言に沿って、端末等を使う時の決まりを守っている。	82.7	87.1	82.2	b	<ul style="list-style-type: none"> 生徒と保護者の回答に大きな差が見られ、スマホ使い方宣言についての理解が進んでいないと考えられる。 スマートフォンの使用時間についても、生徒と保護者では認識に差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> スマートフォンなどの使い方について生徒・保護者へのアンケートを行い、実態について把握する。 スマートフォン等の端末の使用状況について、保護者の思いを収集する。
			保護者	⑱お子さんは、スマホ使い方宣言に沿って、端末等を使う時の決まりを守っている。	55.2	59.4				
			教員	⑲望ましい生活習慣を身に付けさせるための取組をしている。	100.0	100.0				

<重点目標④> 信頼される学校づくり

評価の視点	ビジョン	評価の方法	対象	アンケート項目	中間アンケート	最終アンケート結果	自己評価	最終評価	分析	今後の取組
信頼される学校づくり	(4)	アンケートの結果と、対外的な活動の様子や学校公開でのアンケート等から総合的に評価する。	生徒	⑪学校に行くのは楽しい。	82.7	93.6	90.5	a	<ul style="list-style-type: none"> すべての項目において前回を上回る結果となった。特に「信頼できる先生がいる」という項目において生徒・保護者ともに90%を超える結果となつたことは日頃の指導の成果と言える。 「お子さんは、学校へ行くのが楽しそうである。」と回答した保護者は80%を下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> 日頃から生徒・保護者とのコミュニケーション・連携を深め、引き続き信頼を得られるよう努める。 生徒が学校生活を楽しめるようにカウンセリングなどの相談体制を充実させる。 生徒が学校で楽しく生活していることをたよりで発信し、保護者に伝えていく。
				⑫信頼できる先生がいる。	93.1	100.0				
				⑬地域の行事に積極的に参加している。	79.3	87.1				
			保護者	⑭お子さんは、学校へ行くのが楽しそうである。	75.0	78.1				
				⑮信頼できる先生がいる。	93.1	93.5				

<重点目標⑤> 組織的な学校づくり

評価の視点	ビジョン	評価の方法	対象	アンケート項目	中間アンケート	最終アンケート結果	自己評価	最終評価	分析	今後の取組
業務改善の取組	(5)	アンケートの結果と、業務改善の具体的な項目を明らかにして評価する。	保護者	⑯学校は、多忙化改善に向けた取り組みを積極的に進めている。	100.0	90.3	95.2	a	<ul style="list-style-type: none"> 教員の結果は前回と同じく100%であった。保護者のアンケート結果は若干下がった。 	<ul style="list-style-type: none"> 現在も高い評価をいただいているが、多忙化改善でどのような取り組みをしているかを発信し、必要がある場合には取組に関して依頼し、理解を求めていく。
				⑰業務改善に向けた積極的な取組を実践している。	100.0	100.0				
組織的な学校づくり	(5)	アンケートの結果と、各種たよりの発行回数、HPの更新頻度等を合わせて評価する。	教員	⑱各種たより等を通じて、情報発信している。	100.0	100.0	100.0	a	<ul style="list-style-type: none"> 前回同様100%の結果であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も100%を維持できるようにする。特に服務規律の遵守と、管理職との連携は大切にしていくべき。
				⑲生徒のことについて、保護者との連絡をとっている。	100.0	100.0				
				⑳服務規律を遵守している。	100.0	100.0				
				㉑管理職への報告・連絡・相談を行っている。	100.0	100.0				

«アンケート集計から自己評価までの流れ»

- ① アンケート結果から、それぞれの項目をa~dの4段階に評価する。
 「そう思う」+「だいたいそう思う」が85%以上 ⇒ a
 「そう思う」+「だいたいそう思う」が75%以上 ⇒ b
 「そう思う」+「だいたいそう思う」が65%以上 ⇒ c
 「そう思う」+「だいたいそう思う」が65%未満 ⇒ d
- ② 評価の方法に記載してある方法で自己評価を行う。

<学校評議員からの質問や意見>

- ・重点目標①の「確かな学力の育成」は数値でいうとBだが、学校はよく頑張っているのでAでよい。Cの項目については改善するよう頑張ってほしい。

- ・いじめを受けている時は、なかなか言い出しにくいと思う。いじめのサインをキャッチしてほしい。

- ・市政懇談会で、児童館から学校までスクールバスを利用していると聞いた。体力をつけるためにも児童館から歩かせてもよいのではないか。

- ・質問:校名が「門前学園」になった経緯は?
 → 児童・生徒のアンケートで多数であったこと、「門前」は残してほしいという意見が多数あった。